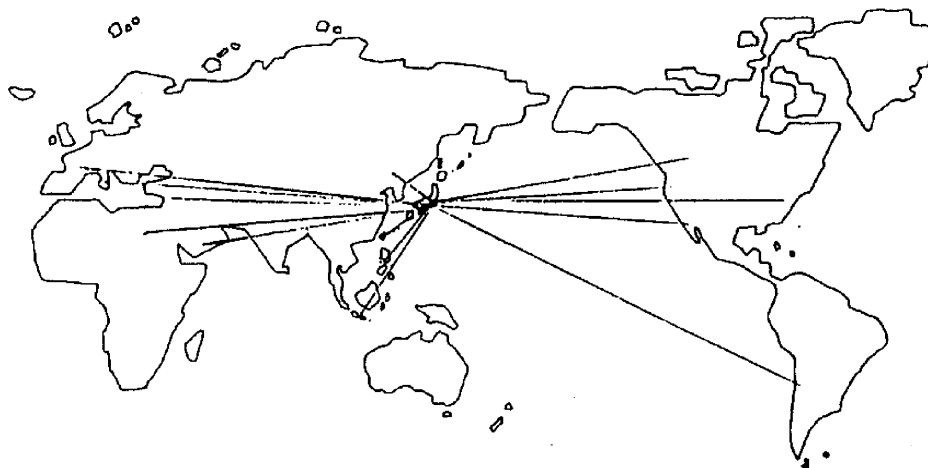


1999年度

混合受け入れ方式による帰国子女教育の現状

—地域別選抜で入学した在留地域別にみる生徒の実態（2年次）—

伊藤 雄二 林 正太 石戸谷 浩美 赤荻 顕子
帰国子女委員会



I 入学者（男子8名、女子7名）

*（ ）内の数字は人数

在留国（就学以前の在留および複数滞在を含む）

A地域（アジア地域）

中国（1） 中華民国（1） インドネシア（1）

タイ（1） マレーシア（1） フィリピン（1）

スリランカ（1）

B地域（北米・欧州・太平洋地域）

アメリカ合衆国（7） オランダ（2）

C地域（中南米・中近東・アフリカ地域）

バハレーン（2） トルコ（1） ナイジェリア（1）

在留国数

1カ国（10） 2カ国（5）

在留期間

10年～ （3）

～9年 （0） *平均 7年7カ月

～8年 （1） *日本国内の小学校に編入せず

～7年 （5） 直接本校に入学（9）

～6年 （3）

～5年 （2）

～4年 （1）

学校種（のべ人数）

日本人学校 <A 5 B 1 C 3>（9）

現地校 <アメリカ合衆国>（6）

補習校 <アメリカ合衆国>（6）

塾 <マレーシア>（1）

<中国>（1）

<タイ>（1）

<アメリカ合衆国>（5）

学習した言語（のべ人数）

英語（14） スペイン語（1） 広東語（2）

トルコ語（1） タイ語（1） オランダ語（2）

アラビア語（1） インドネシア語（1）

II 帰国子女の社会的動向からみた新制度による本校の帰国子女入試とその教育の展望

帰国子女を取り巻く社会的状況にどのように対応していくのか。最近の帰国子女の動向として次の6点が指摘されている。

①アジア地域からの帰国子女の増加

従来は、欧米からの帰国子女の数が圧倒的に多かったが、ここ数年、アジア地域に在留する海外子女

の割合が急増している。平成10年度、海外子女数は約5万人。そのうち、約1/3にあたる1万6千人弱がアジア地域という状況になっている。そのため、今後、アジア地域からの帰国子女が増加傾向にある。

②在留期間の長期化

一国での在留に加え、海外から海外へ在住するというケースも多くなってきている。そのため、適応教育の必要性の強化が必然性を増している。

③低年齢での帰国、および海外出生児の増加

低年齢で帰国する子供の増加や海外で出生し、まったく日本での生活経験がない帰国子女が増加傾向にある。

④非英語圏からの帰国子女の増加

⑤障害をもつ帰国子女の増加

⑥帰国子女受け入れ地域の地方分散化

(1) 帰国子女の状況の変化に対応した適応教育を「混合受け入れ方式」の中でどのように実践していくのか。(②, ③)

帰国子女の状況の変化として、在留期間の長期化、低年齢での出国、海外出生児の増加があげられる。それは、帰国後の適応教育が、より必要とされることを意味しているが、本校のように「混合受け入れ方式」をとっている場合、新たな適応教育を考えていく必要性が求められてくる。

(2) 国立大学附属として、帰国子女教育を他の学校に普遍性のある実践と研究を示していく。(⑥)

帰国子女の受け入れ地域が大都市圏中心であったのに対して、地方分散化する傾向にある。20年以上にわたる「混合受け入れ方式」の経験を、そうした学校に、何を、どのように援助していくかが課題である。

(3) 地域特性の研究とそれらを共有していく研究をどのように進めていくのか。(①, ④, ⑤)

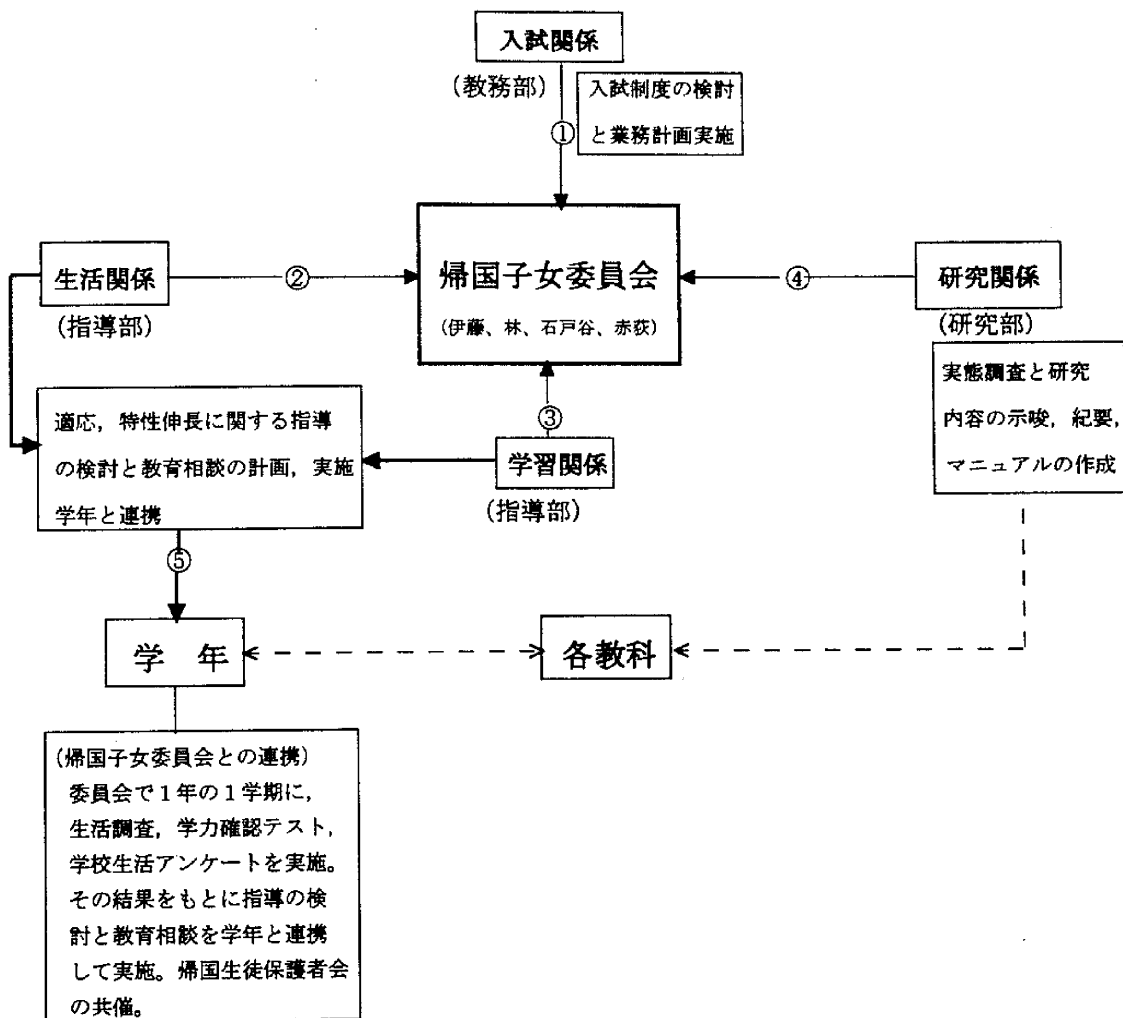
以上の動向をかんがみ入試制度と資格を見直し、研究の方向性の特色を明らかにするために、帰国生徒の在留国に地域的な広がりをもたせることにした。

「帰国子女」と一言で表現されているが、在留国、文化、宗教、教育、学校種、期間、年齢などにより異なった影響を受け、それらが帰国生徒の国別あるいは地域別の特性として表れてくると思われる。そうした地域特性を体系的に明らかにしていく研究を行っていくとともに、帰国生徒同士や一般生徒とのものの考え方、見方、生き方などを共有していける実践と研究をどのように進めていくのかを課題とした。

以上のような取り組みは、1997年度の帰国子女教育プロジェクトによって提案されたものである。1998年度からは、帰国子女委員会（4人構成）が発足し、本校の帰国子女教育の原動力的立場として、学校全体でこの教育を行っていくパイプラインとなった。その組織と業務内容を記述しておく。

①帰国生入試関係

教務部	帰国子女委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・面接実施要領（業務関係）の作成 ・面接担当者事前打ち合わせ ・入試時補助生徒の指導 ・判定会議後の関係書類の整理 ・入学者資料作成（新1年主任へ） （願書、身上書、入学者名簿） ・健康診断用紙を入学者へ配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試内容、要項、書類の見直しと提案 ・願書の受け取りと処理 ・面接資料および得点原簿の作成 ・判定会議資料作成と合格発表準備 ・入試の広報 （文部省、外務省、財団、フレンズ、 その他からの入試アンケートに回答） ・入試の分析 ・卒業時の進学先と資料整理



②帰国生生活関係

(1) 帰国生入学時検査の実施

入学後のオリエンテーション期間中に、帰国生入学時調査をアンケート形式で、帰国生15名とその保護者に実施する。海外経験の内容や中学校の生活への要望や不安などを把握する。内容整理は委員会で行い、学年、養護教諭との連絡をとり、状況に応じて学級担任、あるいは、委員会の担当者が指導にあたる。4月の帰国生保護者会ではアンケート結果の概要と指導の方向性を委員会の担当者が話をする。

(2) 帰国生との教育相談の実施

(1) のアンケート結果をふまえ、帰国生の状況に応じて、適宜、教育相談を、学年、学級担任、あるいは委員会の担当者が行い、学校生活や学級生活への適応がスムーズに行えるようにするとともに、特

性の保持・伸長への指導にも心がけ、帰国生の自己肯定概念を保証する指導を行う。4月、7月、2月に個人面接を実施。

(3) 帰国生の保護者会の開催

1年の1学期に2回(4月と7月)は、全体保護者会の前に1時間程度で開催する。4月の帰国生保護者会は、委員会の担当者が中心となって会を進めて行くが、それ以降の運営と開催の日時は、学年と相談する。必要に応じて3学期にも実施。

③帰国生学習関係

(1) 帰国生入学時学力確認テストの実施

入学後のオリエンテーション期間中に、新1年生向けの業者テスト(4教科)を、家庭学習として行う。このテストは、今後の学習指導のひとつの目安

にするために実施するのであって、成績には関係ないものであるという趣旨を帰国生とその保護者に伝えた上で実施する。採点は、該当教科の主任に依頼し、学力に対してのコメントを聞き、指導の参考とする。

(2) 帰国生の学習適応のための学習補充、学習相談日の計画・運営

(1) の学力確認テストの結果や授業、定期考査の結果により、必要に応じて今後の学習補充の方針を検討する。委員会の担当者が連絡・調整役となり、学習補充、あるいは、ガイダンスを必要とする教科の担当者と連絡をとる。そこで、学習内容・方法（家庭学習課題を含む）や学習相談の日時を帰国生個々にアドバイスする。それを学年、学級担任にも連絡する。また、学力確認テストの結果とその対応策、授業や定期考査の結果による今後の学習のあり方については、学級担任と帰国生、あるいは保護者の面談の他に、4月の帰国生保護者会で、委員会の担当者が概要と指導の方向性について話をする。それ以降は、学年と相談する。

なお、帰国生の個々の学習状況に応じて、必要ないと判断できる時期には、これらの取り組みを取り止めることもありうる。

④ 帰国生に関する研究関係

(1) 帰国生アンケートの実施

帰国生およびその保護者に対して、本校の帰国子女教育についての意見や感想、帰国生であることについての意識などを調査するアンケートを行い、その結果と考察をその年度の研究紀要に載せる。また、帰国生保護者会でアンケート集計結果を資料として配布し、それをもとに話をする。日時については、学年と相談する。

(2) 帰国生の地域別行動（生活、学習）特性を踏まえた研究の開始（予定）

3年間を見通した適応教育、特性保持・伸長教育、一般性、帰国生同士の相互啓発教育、国際理解教育のなかで地域別行動特性を踏まえての追跡調査を行い、その年度の紀要に載せる。（①～③の取り組みを参考に焦点化する。）

(3) 混合受け入れ方式による「帰国子女指導マニュアル」の作成の開始（予定）

(1)、(2)の取り組みやそのために使用した資料、プリントなどを記録として蓄積することと、本校の帰国子女教育のベースとなっている過去22年間の帰国生教育の実績を踏まえた取り組みの状況と成果を、混合受け入れ方式をとる学校に対して参考となる指導マニュアルとして将来的に作成していく。（過去の本校の帰国子女教育に関する研究紀要の整理を含む。）

⑤ 学年との連絡

次頁に図で示す。

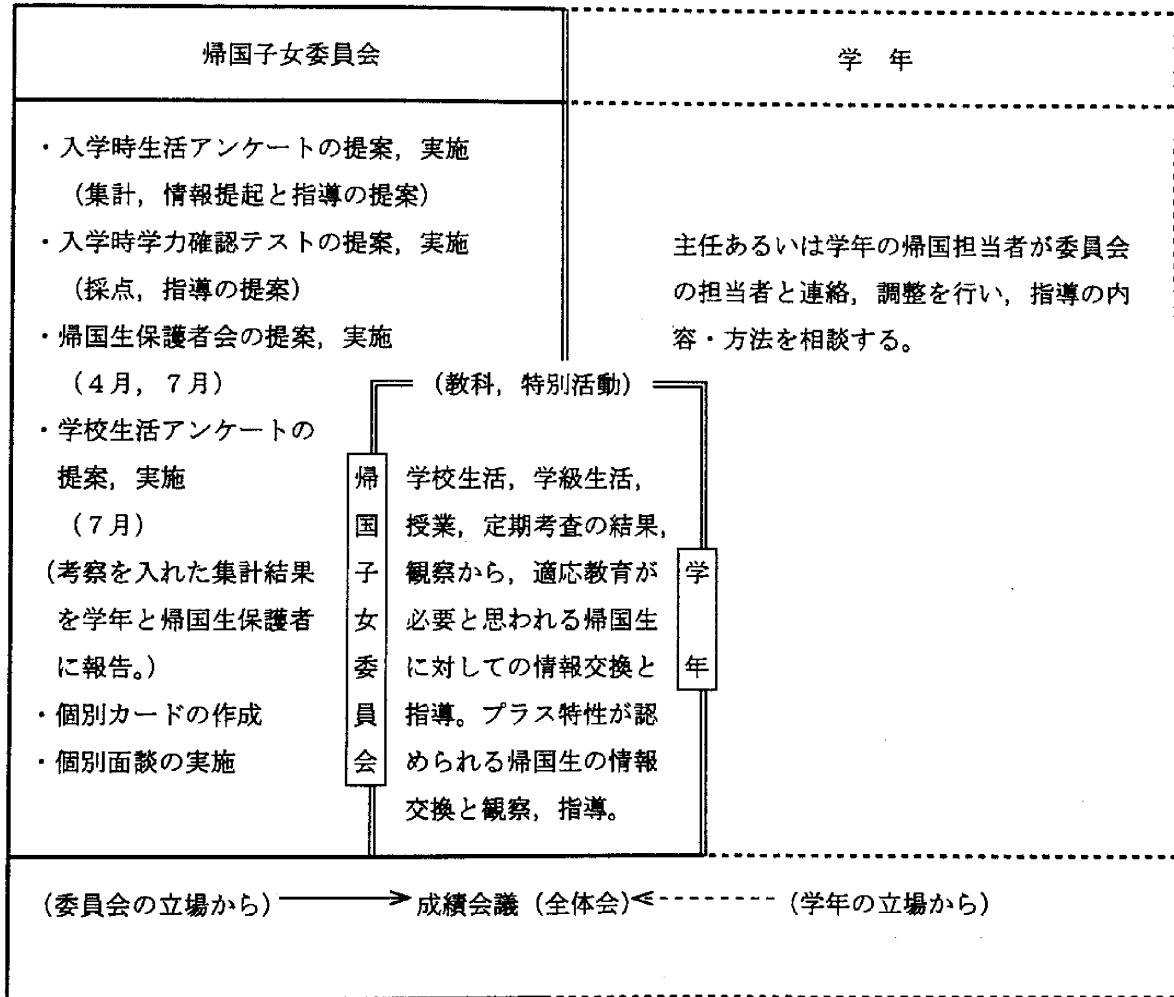
III 今年度実施した業務内容

次に示すものは、1年間の帰国子女委員会の業務内容と実施時期である。

1. 帰国子女委員会の仕事と各部、学年等との関連を検討<3～4月>
2. 帰国生入学時アンケートの実施・集計と指導の方向性の検討と実施<4月>
(学年と連絡後、帰国生保護者会で報告)
内容：・本校の帰国子女教育の方針について
・入学時アンケート結果の報告
・生活面および学習面におけるソフトランディングへの指導について
3. 学力確認テストの採点と今後の指導の検討と実施<4月>
採点は、該当教科の主任に依頼し、コメントを聞き、指導の検討資料とする。保護者会では、おおまかな学習傾向と今後の指導の方向性を話す。学年と連絡をとりながら、状況に応じて個々の指導のあり方を検討する。
4. 第1回帰国生保護者会の実施<4月>
5. 学校生活に関するアンケートの実施<7月に実施>
6. 文部省主催の帰国子女協議会のための資料作成<5月>
7. 生活適応指導、学習適応指導の開始の確認(年間3回の個人面接の実施と個人カード作成)

- < 4月, 7月, 2月, 定期考査後 >
8. 本校の帰国子女入試および帰国子女教育についての問い合わせにおける対応の確認と面談の実施 < 4月, 年間 >
 9. 定期考査の結果による学習適応指導の検討 < 主に1学期 >
 10. 第2回帰国生保護者会の開催 < 7月 >
 11. 成績会議の全体会で, 帰国生の成績・生活面の報告 (学年との連絡) < 7月 >
 12. 帰国子女入試への準備と実施 < 11月~2月 >
 13. 入学者の資料作成 < 3月 >
 14. 卒業生の進路状況および資料整理 < 3月 >
 15. 紀要記載への準備 < 2月~3月 >

図 学年との連絡



(文責 林 正太)

IV 1学期アンケート集計結果のまとめ

対象：1999年度帰国子女入学生15名および保護者15名

回答は自由記述方式。一人複数回答あり。表の回答項目はアンケートの回答をまとめたもの。

また、表中のA・B・Cは地域別を表す。

1 本校での生活、学習に対するとまどいや悩み

<生活>

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C
なし/楽しい	2 5 2	1 4 -
友人関係にトラブル (とまどっていたが、今はおちついている)	2 1 -	2 1 -
体育の更衣時間が少ない	1 1 -	2 - -
朝の学活がないため物を忘れることがある	1 - -	- - -
持ち物・服装のきまりが多い	- - -	1 - -
学年ロビーの遊びが危ない	- 1 -	- - -
重い荷物で疲れる	1 - -	- 1 3
教室が暑い	- - 1	- - -
先生に話しかけにくい	- - -	- 1 -

<学習>

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C
なし	1 1 -	- 1 1
海外での学習 (小学校) との違いによるとまどい等		
<p>生徒：文章の読み取りやまとめや国語が全然できない。自分がどのような位置にいてどれくらいがんばらなければいけないのかわからないこと。ペースが速い時がある。</p> <p>詳しく教えてくれない教科がある。小学校の復習というかたちで進められると意味がわからないことも多い(理科、社会)。/興味が持てない。(社会)ペースが遅い。</p> <p>授業が一方的で、先生から距離が遠い</p>	4 5 -	- - -
<p>保護者：本人の学力レベルがどのくらいの所にあるのかよくわからない。提出物について提出率などの評価を保護者会にて周知してほしい (先生の学習の進めかたや本人の学習への取り組みかたを知る助けとなる)。</p> <p>小学校の復習というかたちで進められると意味がわからないことも多い(理科、社会)。</p> <p>体育、音楽、技術家庭などはじめてやることばかりでとまどっている/用語を覚えるのに苦労している。</p> <p>少数数制で進められるアメリカの授業形態を懐かしく思っているようだ。</p> <p>国語で、短い文章を細かく読んでいくやり方がつまらない。</p>	- - -	- 5 6
学習の方法についてのとまどい		

生徒：期末テストの勉強とかどこから手をつけていいのかわからない。勉強の仕方。復習すること。成績が悪い。学習が難しくなり、定期テストも範囲が広い。	- 3 3	- - -
保護者：中学生にふさわしい学習姿勢が身につけていないこと。中間考査はどう勉強をしたらよいのよくわからない(思うように点はとれない)。成績が悪い。今後、塾へいった方がいいのか	- - -	3 3 2
授業中の発言者が決まっている(少ない)	- 1 -	1 1 -
部活(運動部)との両立が困難	2 - -	1 - -
本人の学力レベルがよくわからない	1 - -	1 - -
「英語のテスト満点だろ?いいよなあ」と言う人がある	- 1 -	- - -

2 本校に入学してよかったと思うこと

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C
人間関係がいい		
生徒：よい先生(楽しい授業にしようと努力している姿が見られる)とよい友達にめぐりあえた。いろんな人と出会えた。友達がたくさんできた。男女の仲がよい。帰国生として特別扱いや区別をされない。 保護者：良い先生やお友達にめぐり合えたようで楽しそうに学校生活を送っていること。スムーズにクラスの仲間に入れた。先生に対する尊敬の念を抱いているようだ。自分以外にも帰国生がいるので、珍しいがられることがないのがよい。帰国生と言うことを他の生徒も理解してくれている。	5 7 3	5 7 3
校風がいい		
生徒：帰国生をちゃんと面倒をみってくれる。 保護者：学校全体がゆとりがあり、のびのびしていきもちがゆったりしてやさしくなったようだ。 気持ちに余裕があるように感じる。健全。学校の様子を結構長々と話しているのを聞いて、地元の中学校の様子と比べて安心して通わせることができる。	2 - - - - -	- - - 2 3 -
授業の内容が素晴らしい。(授業が楽しい。授業の進みかたが丁度いい)	- 2 1	1 1 -
打ち込めるクラブを見つけた	- 1 -	1 - -
向上心ができた/精神的に刺激を受けている	- - -	1 1 -
お便りから様子がよくわかる/先生の言葉が嬉しかった	- - -	- 2 -

3 本校に取り入れてほしい生活スタイル、学習スタイル

<生活スタイル>

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C
なし/満足している	2 4 2	2 4 3
生徒の自覚と責任に任せたおらかなルールにしては。	1 - -	1 - -
お弁当の夏場の管理が不安(冷房が完備されていない)	- - -	1 - -

縦割りの活動を取り入れては。	-	-	-	1	-	-
休み時間にフルーツなどを食べる時間を作ってほしい	1	-	-	-	1	-
親と先生の二者面談を希望	-	-	-	-	1	-
先生一人に対しての生徒の数を減らしてほしい	-	-	-	-	1	-
back to school night(全体会の後で各教科の先生が1年間の学習内容や授業の進め方、成績評価の方法等を説明。親は先生の人となりや学習内容がわかる。)のように、年頭に全科の担当の先生方のお話をうかがいたい。	-	-	-	-	1	-
朝の学活、読書の時間があるとよい	1	-	-	-	-	-
お互いに教え合い、男女の区別のないような学校に。	-	1	-	-	-	-
自由な服装がよい	-	1	-	-	-	-
カフェテリアを作ってほしい/給食があるとよい	-	1	1	-	-	-
授業から独立した行事をやってほしい(ディベート大会やサイエンスデイ)	-	1	-	-	-	-

<学習スタイル>

回答項目	生徒 A・B・C			保護者 A・B・C		
なし/満足している	4	4	3	3	2	2
実地学習を取り入れてほしい(ボランティア等)	-	-	-	2	-	-
期末考査の範囲発表を早めてほしい	-	-	-	-	1	-
水、土の放課後に補習をしてほしい	-	-	-	-	1	-
学習方法のヒントを教えてください	-	-	-	-	1	-
英語や数学などの取り出しクラス、教科の選択制の導入	-	-	-	-	1	-
少人数のクラスにしてほしい	-	-	-	-	1	1
外国人教師による英語の授業をもう少し増やしてほしい	1	1	-	-	2	-
夏の宿題を減らしてほしい	-	1	-	-	-	-
先生を困らせて意見を出し合う授業がしたい	-	1	-	-	-	-
道徳の時間に先生と会話する時間があるとよい	-	1	-	-	-	-
挙手していない生徒にも指名してほしい	1	-	-	-	-	-

4 帰国生だけの学級で学ぶのと、本校のように他の生徒と同じ学級で学ぶのと、どちらがよいか?

回答項目	生徒 A・B・C			保護者 A・B・C		
他の生徒と同じ学級がいい	7	5	3	7	5	3
日本の学校生活に早く慣れ、いろいろな考え方、感じ方に接することができる。	6	5	-	3	5	-
自分が海外で過ごした期間、日本の同じ年の友達の感じたことなどがわかる。	-	-	-	1	-	-
学ぶ姿勢や生活面での物事の考え方に平衡を持たせられる。	-	-	-	1	-	-
慣れようとする努力が帰国生のかも伸ばしていく	1	1	1	-	-	-
帰国生だけでは偏りすぎる/物足りない	-	-	-	-	2	-
将来、日本で自分をどう生かせるかという面で構えるためのよい段階	-	-	-	1	1	-
他の生徒も帰国生を異質の者を見ていない	-	-	-	-	1	-
日本語が上達する/知識や語彙を補う	-	-	-	-	1	1

他の生徒との交流で自分が異文化を体験したことを自覚できる(帰国生の経験を聞ける)	1	1	1	-	1	-
日本についてより興味が持てる(日本について教えてもらえる)	1	3	1	-	1	-
すべての面で学ぶことがたくさんある	-	-	-	-	1	-
互いに影響(人間性や社会性)を与え合える	1	1	-	-	1	3
友達が増えて楽しい	1	2	1	-	-	-

5 本校の自慢できるところ、他校に通う帰国生のうらやましいところ

<自慢できるところ>

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C				
生徒：帰国生との交流が途絶えているため比較ができない	-	-	3	-	-	-
よい先生がいる(普通の先生よりも)	2	1	-	-	-	-
生徒会がしっかりしている	1	1	-	-	-	-
細かい所にもすぐく気を使ってくれるところ/気持ちをよく	2	-	-	-	-	-
わかってくれる授業がおもしろい	1	1	-	-	-	-
一般の生徒と帰国生の区別、特別扱いが無いこと	2	1	-	-	-	-
行事が充実していること	1	-	-	-	-	-
先輩が優しいこと	1	-	-	-	-	-
クラブが充実していること	1	-	-	-	-	-
友達と話していて楽しい	-	1	-	-	-	-
明るく直ぐたくましい/校風が自由	-	2	-	-	-	-
頭がいい人が集まっているので自分も頑張りたくなる	-	1	-	-	-	-
挨拶がよくできて気持ちのいい学校	-	1	-	-	-	-
先生と生徒の仲がいい	-	1	-	-	-	-
教室がいっぱいある	-	-	1	-	-	-
保護者：帰国生との交流が途絶えているため比較ができない	-	-	-	1	-	-
帰国生がうきあがることなく、溶け込んでいるところ/特別扱いされないこと/帰国生を一つの特徴としてみってくれる、	-	-	-	1	5	2
帰国生の面倒身がとてもよい/帰国生の個別面談や保護者会がある/配慮がある	-	-	-	2	2	-
海外で得たことを生かせる場があるので子供にとっても自信につながると思う	-	-	-	1	-	-
文研で立派なレポートを書いている生徒がたくさんいると思う	-	-	-	1	-	-
コンピューター関連が充実している	-	-	-	1	-	-
校舎が新しく、教室数が多い	-	-	-	1	-	1
外国人の会話の先生がいること	-	-	-	1	-	-
みんなが母校を愛していること	-	-	-	1	-	-
先生方がすばらしい	-	-	-	1	2	-
授業がすばらしい	-	-	-	1	2	-
生活面の指導がきちんとされている	-	-	-	1	1	-

学校、先生方、保護者の受け入れかたがすばらしい	- - -	- 2 -
お母さん方が知的で多才	- - -	- 1 -
友達がいい	- - -	- 1 -
学力レベルがまとまっている	- - -	- 1 -
個性を尊重し、自主生を育ててくれる	- - -	- 1 -
規則が厳しすぎないので、自由にのびのび学校生活を送れる	- - -	- 1 1
男女共学であること	- - -	- - 2

<うらやましいところ>

回答項目	生徒A・B・C	保護者A・B・C
生徒：帰国生との交流が途絶えているため比較ができない/なし	1 2 2	- - -
校則が少ない	1 - -	- - -
校庭が広い	3 1 -	- - -
のどか	1 - -	- - -
他の国へホームステイをする機会があるところ	1 - -	- - -
部活動が毎日ある	1 - -	- - -
外国人の先生の授業の回数が多いと	- 1 -	- - -
友達の家が近いこと	- 1 -	- - -
コンピューターが一人一台あるところがある	- 1 1	- - -
英語と他の言葉（フランス語やスペイン語）を教えてくれる	- 1 -	- - -
保護者：帰国生との交流が途絶えているため比較ができない/なし	- - -	2 1 3
他の国へホームステイをする機会があるところ	- - -	1 - -
広い校庭があること	- - -	2 - -
給食があること	- - -	1 - -
図書室に本が充実していること	- - -	1 - -
英語力を保持するシステムが整っている/英語の取りだし授業(能力別)がある/外国人教師による英語のみの授業	- - -	- 3 -
私立の人は高校受験がなくていい	- - -	- 1 -
個々に応じた学習のアドバイスや宿題が出されること	- - -	- 2 -
学年やクラス単位での親の集まりが習慣化されていて	- - -	- 1 -
情報交換ができること		

6 本校の帰国生以外の友達と学習したり生活して感じたこと、影響されたこと

回答項目	生徒A・B・C	保護者A・B・C
なし	- 2 -	1 - -
受験を経験した友達から、日本の勉強面の厳しさを感じ取っている (本人の学習姿勢に反映されるまでには行かない)	1 1 -	1 - -
友達とテレビやマンガの話でコミュニケーションをとっている	- - -	1 - -
すっかり夜型になった	- - -	1 - -
友人関係で悩んでいたが、結局自分たちで解決したことで 自分はどうかあればいいのかという意識が高まった	1 - -	1 - -

友達との交流でいい意味での刺激を受けた（やる気がでてきた）	1	1	-	-	2	2
部活動などを通して縦のつながりを意識し始めた	-	-	-	-	2	-
親の送り迎えなしで、自分で行動できる楽しさを味わっている	-	-	-	-	1	-
塾に行っている人が多いので、行った方がいいのか	-	-	-	-	2	-
言葉遣いが荒くなった	-	-	-	-	1	-
流行のスタイル（ルーズソックスなど）に興味を持ち出したこと	-	-	-	-	1	-
発言するときに他の生徒を気にするようになった	-	-	-	-	1	-
図書館で勉強できることを知ったようだ	-	-	-	-	-	1
一つの何てないことをみんな知っていたりすること	2	-	-	-	-	-
授業に関係のない話をしている人がいる	1	-	-	-	-	-
勉強を頑張る皆に追いつきたい／勉強の内容が結構違う	-	3	2	-	-	-
皆、発言しない	-	1	-	-	-	-
字をうまく書くようになった	-	-	1	-	-	-

7 帰国生以外の友達に影響を与えたのでは、と思うこと

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C	
なし	2	5 1	3 3 3
海外の経験や現地の言語を教えて、興味を持ってもらえた	4	- 2	2 1 -
人の前にすすんで立ったり、発言をして、クラスを活発にしている	1	1 -	1 - -
英語の授業で目立ってしまう	-	- -	- 2 -

8 自分自身（お子さん）のいいところ<点線から後半は特に海外で身につけたいいいところ>

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C	
だれとでも仲良くなろうとする	2	- 1	2 3 1
物事に積極的に取り組む	-	1 -	5 1 -
明るい、くよくよしない	1	2 -	1 3 -
自己主張ができる、正義感がある	-	1 -	- 2 -
自分の意見をはっきりと言い、行動できる／積極的である	-	2 1	- 4 -
男女の別なく接することができる、人を外見で差別しない	-	3 -	- 2 -
思いやりがあり、親切なところ／協調性がある	1	- -	2 - 3
人との接し方や人を見る目を身につけた、「郷に入っては郷に従え」	1	- -	- 2 -
約束・社会常識を守る／Thank youとSorry がいえる／あいさつができる	2	- -	2 2 -
好奇心が強い／世界の国々のことに興味がある	1	- -	- - 1
いつも笑顔でいる、素直である（少人数で生活してきたから）	-	1 -	- - 1
毎日大量の宿題をこなす習慣／マイペースで行動／失敗にくじけない	-	1 -	- 1 1
英語など現地の言語を話せる	-	2 1	- - -

9 海外で（帰国後しばらくは）あった自分（お子さん）の良いところで最近変わったと思うところ

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C	
なし	-	2 2	2 - 1

積極性がなくなってきた／目立たないようにおとなしくなった ／英語の授業では自分をおさええている	1 1 2	1 3 1
以前はのんびりしていたのに、勉強・部活等で疲れやストレスがある ／もっと生き生きしていたのに笑顔がなくなった／素直でなくなった	1 - -	1 2 -
周囲に流されたり、環境や成長期による変化 早寝だったのに 授業中おしゃべりをするようになった 冗談がきつくて相手を傷つけてしまった 日本人のマナーの悪さへの疑問が次第に出なくなった 言葉遣いが悪くなった（汚く乱暴な日本語を時々使うようになった） 以前は帰宅後学校の話をしてくれたのに、今はテレビや本の誘惑があり、 話しかけてもうるさがられることもある	1 2 - (1) (1) (1)	1 1 1 (1) (1) (1)
英語力を維持し伸ばそうとしない／英語で話し、考える力が衰えてきた／ 現地の言語を忘れかけている	1 2 -	- 2 -

10 海外生活を経験したことで、今の生活や学習で困ったと感じること

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C
なし	4 1 1	2 2 2
生活面		
海外では移動はすべて車だったので体力がない／電車通学が疲れる、面倒だ／ 常夏の地にいたので体力がない／運動の機会が少なかったので運動面で心配	1 2 -	1 - 1
海外生活ではメイドになんでもしてもらっていたため、自分のことを自分で しなくなっていた／親の車での送り迎えばかりだったので、自立が遅い	1 - -	1 1 -
テレビを知らずに育ったので、いまはテレビにくぎづけになっている	- - -	1 - -
転居の連続で、幼なじみやふるさとといえるものがない	- - -	- 1 -
言語・学習面		
日本語力（単語数）が少ない、日本語の能力に不安、国語学習に不安	- 2 2	1 2 -
日本の社会科の常識的な知識に欠けていて、社会科学習に苦労している	- 1 -	- 1 -
補習校で理科・社会科がなかったので、小学校の復習をしてもわからない	- 1 -	- - -
英語を先にやったのでローマ字が苦手	- 1 -	- - -
現地校では数学がトップだったのに、いまはトップになるのが難しい	- 1 -	- - -
友達の持っている外国について誤解を解くために、説明するのに苦労する	- 1 -	- - -

11 その他、学校生活全般で感じたり、考えたりしていること

回答項目	生徒 A・B・C	保護者 A・B・C
なし／楽しく元気に通学できている	2 2 1	2 2 3
学年での生活指導について、細かな指導に感謝	- - -	1 1 -
いやがらせ、約束違反をする人がいる／正直ちょっとがっかりした	3 - 1	- - -
授業や学習についての感想	- 4 1	- - -

がんばってみんなについていきたい	(1)	
国語の成績をどうしたらあげられるか	(1)	
みんなもっと発言してほしい、授業がもりあがらない	(1)	
日本の学校は宿題が多くないので楽しいが、校庭がないのが残念	(1)	
帰国生はみんな英語ができると考えるのはやめてほしい	(1)	
学校生活の様子をもっとよく知りたい、保護者会や面談があるといい 「帰国生の父母の会」のようなものがあれば情報交換できる 「Back to School night」のようなものがあるといい	— — —	3 1 —
学習面の意欲を高め、向上させるために本人にどう自覚させるかが次の課題 ／高校受験が不安、附属高校に行くためにはどうしたらよいか	— — —	— 2 —
荷物が重そうでかわいそう	— — —	— 1 —
日本の学校教育は画一的、もっと個性を伸ばせるような教育環境に改善を	— — —	— 1 —

アンケートをまとめて

(1)生活面について

学校生活を楽しく過ごせており、特に人間関係（友人・先生・先輩後輩・男女など）がよい、という答えが、親子とも出されている。ただし、とまどいや悩みがその人間関係に多かったことも事実で、友人関係に悩む子と、心配して見守る親の姿が回答から伺える。しかし、入学してよかったと思うことの筆頭に、人間関係のよさがあげられていることから、しっかり乗り越えられており、よい方向に向かったことが読み取れる。

家庭生活にも関わるが、テレビに長時間見入ってしまったたり、夜遅くまで起きていて生活が夜型になってしまったり、海外の治安状況によってはできにくかった、子ども同士の外出など、生活スタイルの変化による親のとまどいも出された。子どもたちが、気の合う友人もできて、楽しそうに通学していることは大変悦ばしいことであるとしながら、親は不安感を抱いているようである。

(2)学習面について

発言を積極的に行うことで授業が活性化し、充実感を味わったり、現地の体験や言語についての発表が、友人たちに受け入れられたりと、帰国生としての特長が生かされていることがある。

授業が楽しいとしながらも、授業形態の違いにとまどったり、現地校・インター出身者の中には教科

が違っていて、初めて学ぶ分野があったり、日本語の獲得語彙数が少ないことから、文章を書いたり話したりということが苦手であったりと、不安な材料は多い。特に、定期テストへの取り組みは、日常の学習をどう行っていけばよいのかということと合わせて親子ともに心配に思っているようだ。どこから取り掛かればよいのか、ということと、結果にすみやかに反映されないところから、塾や受験についての情報が一人歩きしてしまっていることもあったようである。

親の方では、学習方法や取り組み方などを知りたい、ということもあるが、そのためにも、情報を得られる機会・場所がもっとあるとよいと考えられている。たとえば、帰国の親同士の情報交換会であるとか、教科担当教官との懇談会であるとか、直接情報を入手する機会を増やすことを望まれているようだ。この中で、学習姿勢や取り組み方などへの不安は、毎年のように見られるが、本校では、子どもに対して個別に、教科毎に対応している。

(3)混入方式について

本校の帰国生の受け入れ方は、一般生との混入方式である。この方式については、親子ともに全員が良いと回答している。もちろん、それを承知の上で入学しているわけであるから当然とも言えるが、入学後、一層その良さを実感している様子が読み取れ

る。(アンケート表参照)しかし、帰国生は、一般生と互いに刺激を受け合う中で、海外の経験を伝えたい、生かした活動を行いたいという想いと、特別な目で見られたくないという気持ちとの間を行き来している姿が伺える。

(4)地域性について

本校では、昨年度入試より3つの地域に分けての選抜を始めた。このアンケートだけでは地域的な特徴を明らかにすることは難しいが、読み取れるところだけ少し述べてみたい。

A地域(アジア)とC地域(中南米・中近東・ アフリカ)

この二つの地域性の違い自体は、はっきりとは述べられないが、日本人学校の出身者が多いということが共通している。それは、在留国の治安の問題等で、現地の学校に通ったり、現地の人々と親しく過ごすことが難しかったという事情によるものが多い。しかし、そのために、日本での学習への適応が、比較的スムーズであったということがあげられる。ただし、一般生からは、帰国生=英語が堪能、といった認識を持たれていて困るといったことがある。

また、校舎設備の点で、在留国が充実していただ
けに、暑さへの対応に不満を持つ生徒もいる。

B地域(北米・欧州・大洋州)

現地校・インター出身者が多いことから、日本での学習へのとまどいも少なくない。しかし、現地で違う文化の集団の中で学んできた経験は、日本での学習適応にも良い方向で働いているようだ。また、今年度は、この地域全員が北米・欧州地域であり、現地校の出身者である。学習形態や学習方法についても、在留国での経験を述べることができ、周囲に刺激を与えている。しかし、その一方で、逆に英語の時間に、自らセーブしてしまうということもあるようだ。

帰国生と一般生が混在している本校において、子どもたちは多くの価値観を体験する環境にあるといえる。一般生にとっては、もちろんのことだが、長

期間、様々な文化の中で生活してきた帰国生にとっても、一般生の持つ価値観にはとまどうことも多いだろう。誤解が生じて、行き違いからトラブルがおこることも起こり得る。しかし、それを乗り越えた時、初めてお互いの個を認識し合い、関係を新しく築き上げていくことができる。

一つの文化が多くの文化と出会い、包含し、融合し、そして豊かな文化に発展していく。その発展の一助となることが本校の使命であると考えている。

(文責 赤荻顕子)